

美ら旗舞うらさな!!

旗頭は、燈籠(トウルー)を竿頭(かんとう)にしたのぼり旗で、綱引行事には欠かせないものです。首里の綱引は「綾門大綱」と呼ばれる国の慶事に引かれた大綱と、各町で引く村綱があったと言われています。綾門大綱は明治時代には途絶え、旗頭も先の大戦によって、貴重な資料がすべて灰塵と化してしまいました。しかし戦後、首里文化祭の開催をきっかけに、各町で、旗頭が復興と化してしまいました。現在、青年旗の他、子供会や小中学校の子供旗もあり、地域活性化のシンボルとなっています。



《桃原町》我謝 幸紀さん
桃原の旗は首里地区でも古い旗なので、その歴史に恥じないよう演舞したいです。



《儀保町》新垣 正明さん
ちゅらばともーらすんどー!!



《平良町》嘉陽田 達也さん
先輩方から受け継がれてきた「平魂」の旗頭を、どこにも負けない気持ちで、美ら旗舞うらしい。



《赤平町》桃原 俊光さん
旗頭と育ってきた人生。



《石嶺町》玉城 俊光さん
地域の活性化と青少年の健全育成で地域の団結心が生まれ、石嶺町全体が活力に満ちた町に生まれかわりつつある。



《久場川町》金城 政也さん
「延賢同楽」と共にサーサーサー。



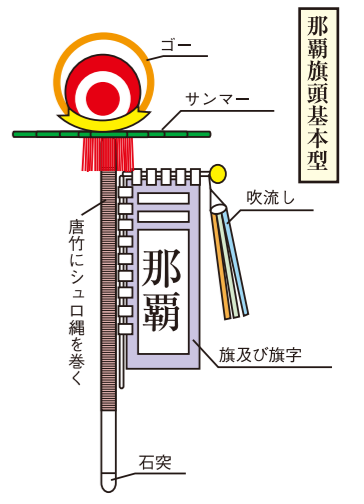
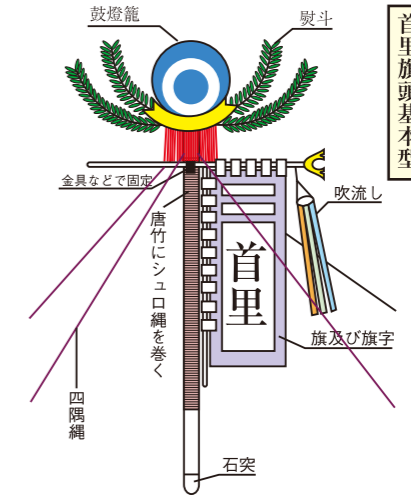
《城東ハイツ》外間 淳さん
旗字の「夢風」の二文字に込められた、地域住民の夢が風に乗って大空に飛ばたくようにと願いを込めて美ら旗を舞うらしい。



◎持ち方
首里では、鼓燈籠が大きく風を強く受けるため、速いテンポで旗を上下させます。一方、那覇では、ゆったりとした持ち方をします。そのため金鼓のテンポも首里では早く、那覇ではゆっくり打ち鳴らされます。



◎旗頭の特徴
旗頭は、竿に燈籠、ゴー、サンマー、吹流しなどを付け、地域の心意気を表す旗字を掲げて、旗の美しさ、明るさ、持つ技術の複雑さを競います。その重量は三十〜六十キロになります。また、旗の動きにあわせて金鼓(チンク)と呼ばれる鉦子(しょうこ)や銅鑼が鳴らされます。那覇の「屋旗」に対し、首里の綱引は夜に開催されたことから「夜旗」と呼ばれ、鼓燈籠(チンドンウール)と呼ばれる頭飾りに灯りを灯し、夜の闇に明るく浮き立ちます。



◎衣装
首里の旗持の衣装は、夜に映える白衣装です。一方、那覇では黒衣装です。

◎青年会の地域交流
青年会人口の減少のため、首里・那覇の青年会では、那覇まつり・首里文化祭のイベントの際は、交互に旗持ち協力が行われています。こうした協力によって旗頭の地域交流が行われています。



《山川町》露木 真吾さん
先輩、後輩の仲も良く、楽しく旗頭を持っています。伝統を大切に、守っていきたく思います。



《寒川町》平良 吉秀さん
旗頭の演舞を通し、薫り高い首里の文化及び自治会を、継承発展させる若き担い手を育成することを目的としています。



《金城町》赤嶺 栄一さん
すいかなぐくの町民の総意を結集した旗頭(麒麟草)にニセターの熱い思いが住みついている。美ら旗がこの旗の命!



《大中町》本田 慎太郎さん
元気が一番。



《当蔵町》宮城 俊之介さん
どこの町にも負けないくらい旗頭が大好きで熱い人間が集まっています。



《崎山町》上江洲 克也さん
伝統の旗を守り伝えていく。



《赤田町》城間 勉さん
赤田町青年会はチームワークもよく、楽しんで活動しています。旗頭をやりたい!と思う方、ご参加お待ちしております。



《鳥塚町》湧川 朝裕さん
旗頭はムラのシンボル。地域活性化のためにこれからもがんばります。